平成23年における鉱工業指数の動向について

～東日本大震災により多大な影響を受けた本県製造業～

茨城県企画部統計課　庶務･企画分析グループ

はじめに

茨城県統計課では，毎月，「茨城県鉱工業指数」を作成・公表しています。本誌「統計いばらき」では毎回「月間の主な動き」や「主要経済指標」に掲載されていますので，ご存知かと思いますが，どのような指数であるかを簡単に説明しておきます。

茨城県鉱工業指数は，県内の製造業及び鉱業の生産・出荷・在庫の数量等を指数化し体系的にとらえたものであり，基準年（＝現在は平成17年）の平均を100とした比率で示されています。本県の場合，鉱業の割合は非常に小さい（0.05％程度）ので，ほぼ製造業の動向を表す指数と言ってもいいかもしれません。

本指数は，製造業が県内総生産に占める割合が大きいこと，景気の動きに敏感に反応すること，速報性があり，情報量が多いこと等により非常に重宝されている指数であり，経済情勢の判断指標として使われることが多くなっています。

今回は，東日本大震災により大きく変動した平成23年における指数の動きを中心に紹介いたします。

1　茨城県鉱工業指数の年別推移

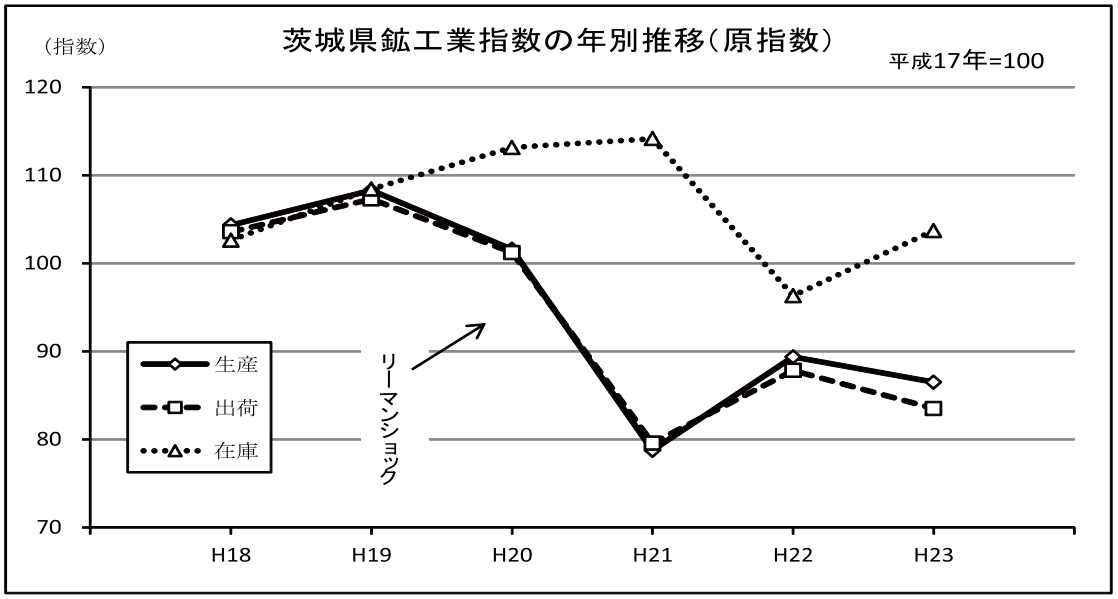
平成23年の鉱工業指数は，

生産指数は，　86.5（前年比▲3.2％）と２年ぶりの低下

出荷指数は，　83.5（前年比▲4.9％）と２年ぶりの低下

在庫指数は，103.7（前年比＋7.7％）と２年ぶりの上昇　　となりました。

グラフを見ていただければわかりやすいと思いますが，生産・出荷指数ともに，リーマンショックの影響により20年，21年と２年連続で低下した後，22年に上昇に転じたのですが，23年は東日本大震災の影響により再び低下しました。



2　鉱工業指数の月別推移

平成23年の鉱工業指数の動きを月別にみてみます。次ページグラフの四角で囲んだ部分が23年中の動きになります。

⑴　東日本大震災の影響とその回復過程

本県の23年当初の動きをみると，１，２月と生産・出荷指数ともに２か月連続で上昇し，それぞれ99.1，94.1となり，リーマンショック直後の平成20年10月以来の水準に回復しました。

しかし，東日本大震災が発生した３月は，生産指数は全業種で低下，出荷指数は繊維工業を除く全業種で低下し，対前月比がそれぞれ▲38.4%，▲33.0%となり，現在の基準で比較可能な期間では過去最大の低下率となりました。これは，リーマンショックで低下した平成20年９月から翌21年２月までの５か月間の低下率▲26.7%，▲25.7%を単月で超えました。また，生産指数の低下率▲38.4%は，全国的にみても宮城県の▲54.4%に次ぐ２番目の低下率となっており，震災が本県の製造業に対して与えた影響が非常に大きかったことがよくわかります。

４月には，生産・出荷指数ともに上昇に転じはしましたが，震災前の水準に比べるとかなり低い水準です。業種別にみると，震災からの復旧が早かった電気機械工業，食料品・たばこ工業等は上昇しましたが，施設の再稼動に時間を要した化学工業，鉄鋼業，石油・石炭製品工業等は更に急激に低下しました。

５月には，生産・出荷・在庫指数の対前月比が，それぞれ＋30.7%，＋16.4%，＋11.2%となり，現在の基準で比較可能な期間では，いずれも最大の上昇率になりました。生産の上昇を業種別にみると，化学工業，鉄鋼業が２倍以上に上昇したほか，一般機械工業が大きく上昇しており，県内の主要な業種が急速に復旧してきたことがわかります。

６月は，生産・出荷指数ともに３か月連続で上昇し，いずれも震災前の２月の指数の95%程度まで回復しました。生産指数は，23年１月の指数をわずかながら上回っており，指数だけをみればほぼ震災の影響から回復したと言っていい水準にまで上昇しました。上昇要因を業種別にみると，いずれも化学工業が大きく寄与しているほか，鉄鋼業，石油・石炭製品工業が寄与しており，鹿島コンビナートの復旧による影響が大きいと考えられます。

７月以降は，生産・出荷指数はともに一進一退の動きが続きました。その後，生産指数は，24年１月分から３か月連続で上昇。２月には100.3となり，震災前の23年２月の指数（99.1）を震災後初めて上回りました。また，指数が100を上回ったのは，リーマンショックが発生した平成20年９月の指数以来のことです。

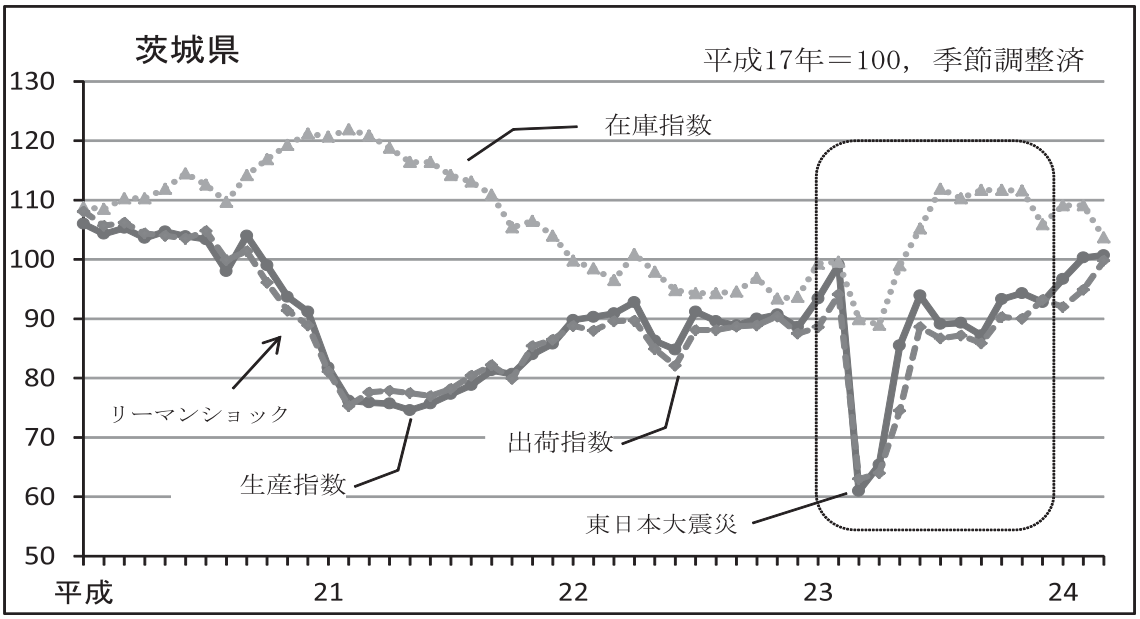
⑵　全国との比較

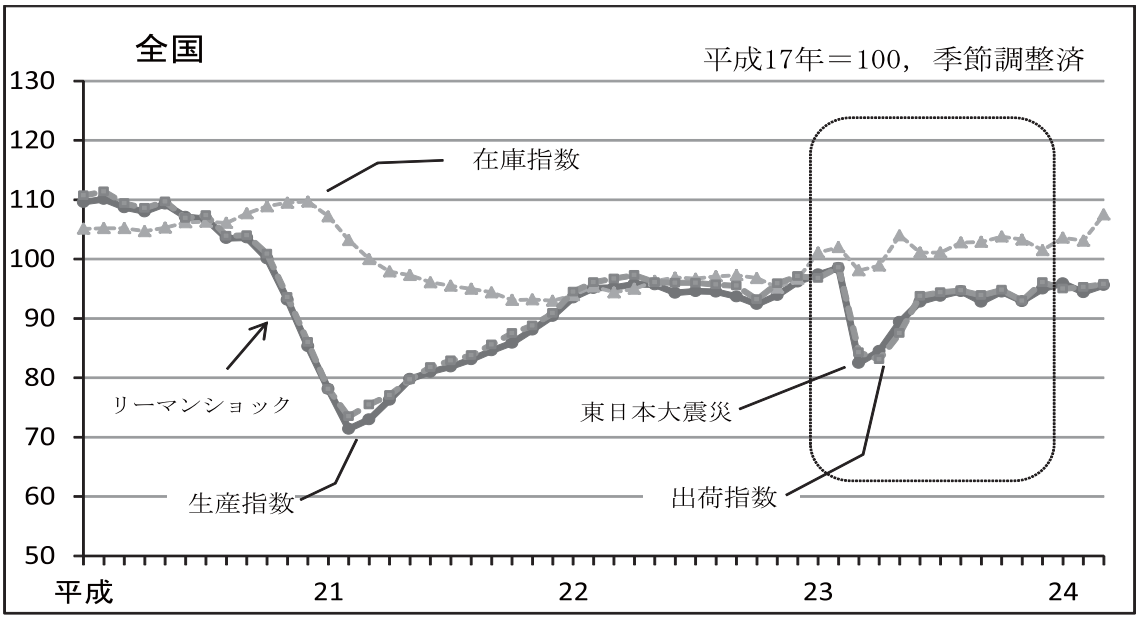
【東日本大震災】

震災が発生した３月の前月比をみると，本県（生産▲38.4% 出荷：▲33.0% 在庫：▲9.7%）は各指数とも全国（生産▲16.2% 出荷：▲14.5% 在庫：▲3.8%）の２倍以上低下しており，震災の影響が強くみられます。

【タイの洪水】

11月はタイの洪水による影響により，全国の生産指数は前月比▲1.9%となりました。これは，タイからの部品輸入が滞ったため，輸送機械工業，情報通信機械工業が大きく低下したことによるものですが，本県は，両業種ともにウェイトが低く指数に与える影響も小さかったため，逆にプラスの動き（＋1.1%）となっています。





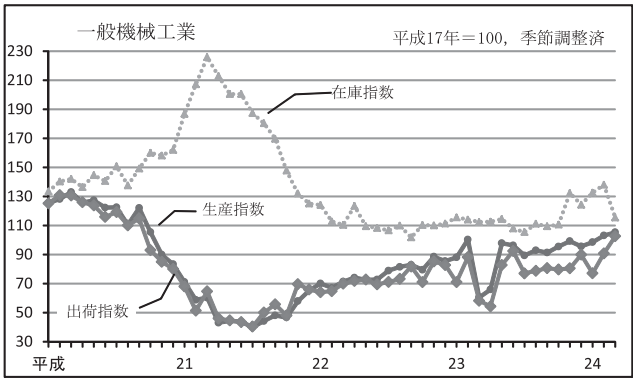
H17＝100

		生産 本県 指数	生産 本県 前期比(%)	生産 本県 前年同期比(原指数%)	生産 全国 指数	生産 全国 前期比(%)	生産 全国 前年同期比(原指数%)	出荷 本県 指数	出荷 本県 前期比(%)	出荷 本県 前年同期比(原指数%)	出荷 全国 指数	出荷 全国 前期比(%)	出荷 全国 前年同期比(原指数%)	在庫 本県 指数	在庫 本県 前期比(%)	在庫 本県 前年同期比(原指数%)	在庫 全国 指数	在庫 全国 前期比(%)	在庫 全国 前年同期比(原指数%)
原指数	平成 22 年	89.4	13.5	－	94.4	16.4	－	87.8	10.4	－	95.8	16.7	－	96.3	▲ 15.6	－	96.6	3.8	－
	23	86.5	▲ 3.2	－	92.2	▲ 2.3	－	83.5	▲ 4.9	－	92.4	▲ 3.5	－	103.7	7.7	－	100.3	3.8	－
季節調整済指数	23年 1～3月	84.5	▲ 5.9	▲ 8.3	92.8	▲ 1.5	▲ 1.3	81.9	▲ 7.9	▲ 9.3	93.2	▲ 2.3	▲ 2.1	96.3	1.7	▲ 2.0	98.1	1.4	3.9
	4～6	81.6	▲ 3.4	▲ 7.1	88.9	▲ 4.2	▲ 5.8	75.7	▲ 7.6	▲ 11.2	88.1	▲ 5.5	▲ 8.3	97.7	1.5	▲ 0.2	101.1	3.1	4.6
	7～9	88.5	8.5	▲ 1.6	93.7	5.4	▲ 0.9	86.6	14.4	▲ 2.0	94.3	7.0	▲ 1.6	111.3	13.9	17.9	102.9	1.8	6.0
	10～12	93.5	5.6	3.8	94.1	0.4	▲ 1.6	91.2	5.3	2.0	94.6	0.3	▲ 2.2	109.7	▲ 1.4	16.0	101.5	▲ 1.4	3.8
	24年 1～3月	99.2	6.2	22.0	95.3	1.3	4.8	95.6	4.8	21.1	95.4	0.8	4.1	107.3	▲ 2.2	11.4	107.5	5.9	9.6
	23年 1 月	93.4	5.4	6.0	97.4	1.2	6.1	88.6	1.3	1.8	96.8	▲ 0.3	4.0	99.3	6.0	▲ 0.5	101.1	4.6	7.4
	2	99.1	6.1	9.7	98.5	1.1	4.5	94.1	6.2	6.8	98.6	1.9	4.1	99.6	0.3	1.1	102.0	0.9	7.4
	3	61.0	▲ 38.4	▲ 32.8	82.5	▲ 16.2	▲ 12.4	63.0	▲ 33.0	▲ 29.6	84.3	▲ 14.5	▲ 11.9	89.9	▲ 9.7	▲ 6.8	98.1	▲ 3.8	3.9
	4	65.4	7.2	▲ 30.4	84.5	2.4	▲ 12.7	64.0	1.6	▲ 29.6	83.1	▲ 1.4	▲ 16.0	89.0	▲ 1.0	▲ 11.9	98.9	0.8	3.6
	5	85.5	30.7	0.3	89.4	5.8	▲ 4.6	74.5	16.4	▲ 11.1	87.5	5.3	▲ 8.0	99.0	11.2	1.2	104.0	5.2	8.0
	6	93.9	9.8	10.7	92.8	3.8	▲ 0.6	88.6	18.9	7.9	93.8	7.2	▲ 1.7	105.2	6.3	11.0	101.1	▲ 2.8	4.6
	7	89.1	▲ 5.1	▲ 3.5	93.8	1.1	▲ 1.7	86.7	▲ 2.1	▲ 2.9	94.4	0.6	▲ 2.6	111.9	6.4	18.6	101.1	0.0	4.4
	8	89.3	0.2	1.0	94.6	0.9	1.6	87.2	0.6	0.4	94.7	0.3	0.6	110.3	▲ 1.4	17.0	102.8	1.7	6.3
	9	87.2	▲ 2.4	▲ 1.9	92.8	▲ 1.9	▲ 2.4	85.9	▲ 1.5	▲ 3.3	93.9	▲ 0.8	▲ 2.6	111.7	1.3	18.0	102.9	0.1	6.0
	10	93.3	7.0	3.7	94.5	1.8	0.9	90.3	5.1	1.6	94.8	1.0	0.0	111.7	0.0	15.3	103.8	0.9	7.5
	11	94.3	1.1	4.1	92.9	▲ 1.7	▲ 2.9	90.0	▲ 0.3	▲ 0.5	93.0	▲ 1.9	▲ 4.1	111.6	▲ 0.1	19.6	103.3	▲ 0.5	8.6
	12	92.8	▲ 1.6	3.5	95.0	2.3	▲ 3.0	93.2	3.6	5.1	96.1	3.3	▲ 2.4	105.9	▲ 5.1	13.1	101.5	▲ 1.7	3.8
	24年 1 月	96.7	4.2	2.8	95.9	0.9	▲ 1.6	92.0	▲ 1.3	3.2	95.0	▲ 1.1	▲ 1.5	109.1	3.0	9.8	103.6	2.1	2.5
	2	100.3	3.7	7.2	94.4	▲ 1.6	1.5	94.9	3.2	7.0	95.3	0.3	1.5	109.1	0.0	9.6	103.1	▲ 0.5	1.0
	3	100.7	0.4	62.9	95.6	1.3	14.2	99.8	5.2	56.1	95.8	0.5	11.9	103.7	▲ 4.9	15.3	107.5	4.3	9.6

3　主な業種の動向

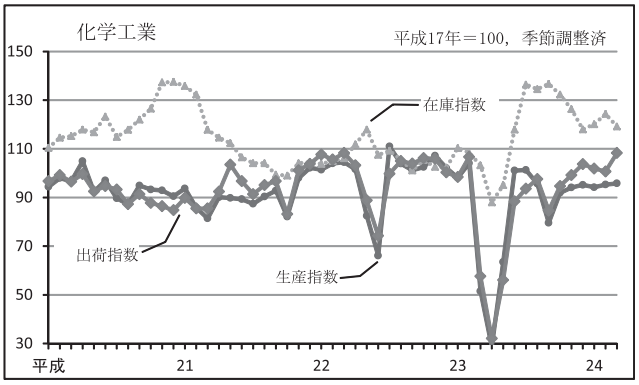
(1)　一般機械工業

生産指数は，震災の発生した３月は▲39.7％と大きく低下しましたが，５月にはほぼ震災前の水準まで回復。その後，少しずつ上昇し，24年３月には105.3となり，リーマンショック直後の平成20年10月以来の水準まで回復しました。23年後半に高い水準で推移していた在庫指数は，24年３月には３か月ぶりに低下しました。



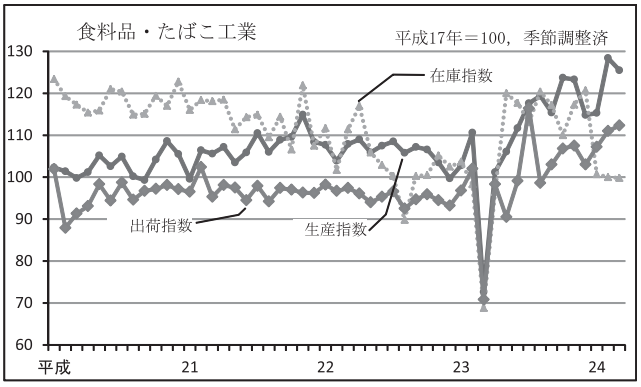
(2)　化学工業

生産・出荷指数ともに震災の発生した３月，そして４月と大きく低下し，指数が30前後にまで落ち込みました。震災前の水準近くまで回復したのは６月になってからであり，鹿島コンビナートが甚大な被害を受け，復旧に時間を要したことがわかります。９月の低下の要因には，化学関連設備の定期修理が，震災の影響により時期をずらして実施されたこと等が考えられます。



(3)　食料品・たばこ工業

景気に左右されにくい業種であり，リーマンショックの際も影響はあまり見られませんが，震災の発生した３月は各指数とも大きく低下しており，工場等の被災や原材料不足から生産が停滞した様子がわかります。しかし４月には急回復し，その後は被災した東北地方の工場の代替生産もあり，高い水準で推移しました。



最後に

平成23年の鉱工業指数は，東日本大震災，タイの洪水，夏季の電力使用制限令の発動等，様々な出来事から影響を受けました。これほど注目を浴びた年はあまりないかもしれません。これを契機に，今後の「茨城県鉱工業指数」の動向に注目していただければと思います。